

## WLCエッセイ・コンテスト

### マルコム・ダガティー

2010年に創価大学ワールド・ランゲージ・センター(WLC)では、開設10周年を記念して第1回目のエッセイ・コンテストを実施した。このコンテストのねらいは、学生の英語によるライティング技術を、授業の枠外で発揮してもらう場を提供しようというものであった。第1回目の成功により、WLCではこれを毎年定期的で開催することを決定した。毎回のテーマはWLCのミッション・ステートメントにうたわれた世界市民性の要素と関係したものになっている。その要素とは、生きとし生けるものすべてが互いに関係しあっていることを覚知できる知恵であり、差異を怖れたり否定したりするのではなく、異文化の人々を尊重し理解しようと努力し、彼らと向き合うことで自ら成長しようと

する勇気であり、自らの卑近な環境を越えてかけ離れた土地で苦しんでいる人々に思いをはせることのできる共感力である。

このコンテストは創価大学に在学するすべての学生に開かれている。2つの部門に分かれており各部門の上位3名には図書券の賞品が贈られる。応募エッセイは1200 から

1500語のあいだの分量で、他者の手助けを借りずに書かれたものでなければならない。第3回WLCエッセイ・コンテストの入賞エッセイをご覧になりたい方は以下のサイトへ。

[http://wlc.soka.ac.jp/index/en/columns\\_and\\_essays/wlc\\_eessay\\_contest-2011.html](http://wlc.soka.ac.jp/index/en/columns_and_essays/wlc_eessay_contest-2011.html)



WLCエッセイコンテスト2011に参加した皆さん  
(WLCパーティーでの授賞式にて)

## WLC FDワークショップ

### ダレル・ウィルキンソン

WLCでは毎年FDワークショップを開催し、全学の教職員向けに教育実践や研究成果を発表している。2011年度は「学習者の自律—その理論と応用」と題し、勘坂泉講師、ダレル・ウィルキンソン講師、レイモンド・ヤスタ講師の共同発表を行った。

まず冒頭に、自律学習を促す教育について、理論的背景の説明があり、勘坂泉講師が、日本の大学という文脈の中で自律した学習者を育む準備段階として、反応性自律 (reactive autonomy) という概念を紹介。“学習ストラテジーの徒弟制” (the apprenticeship of learner strategies) という理論モデルを提唱した。この徒弟制では、教師は自律学習を促進する重要なファシリテーターの役割を担い、認知的徒弟制やモデリングを通して具体的な学習ストラテジーを提示したり、対話を通してメタ認知的知識を共有したり、メタ認知的気づきを促すための批判的内省の機会を提供したりする。この手法を成功させるためには、教師が持っている言語学習に対するビリーフ (信念)、またそのビリーフがどのように発展しているかを、教師自身が常に批判的に内省することが重要であるとともに、教師が学習者の自律する力を信じ、学習者を自律させたいと心から願っているということが不可欠である。

次にレイモンド・ヤスタ講師が、

この学習者の自律を育む取組がどのように実践されているかを、インターナショナルプログラム (IP) のミクロ経済学とマクロ経済学のコンテンツベースの授業を例に発表した。スタディスキル、タイムマネジメントやライティング、リサーチ、編集スキルなどの、リサーチペーパーを書くための土台作りとなるスキルを紹介。これらのスキルは一つ一つが科目の目標を到達できるように組み立てられているだけでなく、学生がこれから学問や仕事をする上で有益となり、長期的に自律した学習者となることを目標に、設計されている。

次にダレル・ウィルキンソン講師が、IPのGlobal Economy Labという授業を例に、履修者がどのように自律性を育んでいるかを紹介した。この経済学のクラスは英語で行われ、学生は授業の内容についてテストを作成する。この過程を通し、経済学の内容を学んでいくのと同時に、将来自律した学習者として必要なスタディスキル、読み書き、文法、編集、自己管理のスキルなどを身につけていく。

最後に、参加者同士で意見交換が行われ、どのように自身の授業で自律を育む努力をしているか、また、今後どのような形で授業に自律を促すスキルを取り入れていくことができるかなどについて議論された。



FDワークショップの様子

※原稿は英語で編集部に届けられたものを日本語訳しました。